

# 報告書

2018年9月13日  
J182113 藤山土瑠那

実施日：2018年8月3日～6日

場所：八ヶ岳

参加者：新井慎平・久保田悠斗・渡邊もも・北村祐輔・池田健太郎・堀江誠人・大島功太郎・三川真慧・藤山土瑠那（計9名）

## 1日目

各々が新宿、三鷹などから高速バスに乗り、小淵沢へ向かった。バスは予定時刻通り着き、タクシー会社まで歩いた。タクシー会社ではタクシーが到着するまでのしばしの間 Eテレ「SNS英語術」を見るなどして待った。そして観音平から、雑談をしながら登り始めた。久しぶりの登山であることと共に、この日は大変暑かったため、一層早く疲れが回ってきたように感じた。青年小屋に着くころには、皆疲れ切っており、編笠山に登る気は起きなかった。そのため、翌日の朝、希望者のみが登ることとなった。テント場は編笠山の麓にあり、涼しく居心地の良い場所であった。そして夕暮れと共にテントへ入り、19時過ぎには就寝した。その後、22時過ぎには数名が起き上がり、外に出てきれいな天の川などの星空を眺めた。

小淵沢駅バス停 10:05	→	観音平 11:10	→	青年小屋 14:45
------------------	---	--------------	---	---------------

## 2日目

3時に起床し、朝食にはそばを食した。その後、編笠山登頂希望班と片付け班に分かれた。編笠山山頂ではちょうど日の出前の朝焼けを堪能することができた。その後、森に入り、開けた岩場を登り、権現岳を登頂した。山頂はただの大岩であり、長居はできなかったが、雲海を見下ろせる景色は圧巻であった。そして権現岳から赤岳へのルートは、過酷極まりないものであった。特に、傾斜45度の20mほどの長さのボロボロはしごには一同が恐怖した。また、赤岳直前のとても急でもろい岩場では神経と体力を酷使することになった。やっとの思いで到着した赤岳山頂は霧で真っ白で、何とも残念であった。下り始めて15分、一同の疲れに追い打ちをかけるように激しい雨が降り始めた。それらによる疲れなどを考慮して山びこ荘まで行く予定を大きく変更し、行者小屋でテント泊をすることとなった。夕食のナポリタンはおいしく完成し、19時前に就寝した。

青年小屋	→編笠山	→青年小屋	→権現岳	→赤岳	→行者小屋
4:00	4:30	5:00	7:32	12:30	14:50

## 3日目

この日は昨日での遅れを取り戻すため1:30に起床した。この時間が人の起きる時間でないということをご周知のとおりであるが、遅れを取り戻すという絶対正義の前ではそのような常識は通用しない。暗い森をひたすら上り、4時過ぎには日が登り始め、道も開け始めた。硫黄岳山頂は広く見晴らしのいい場所であり、また風が強く寒さもあった。その後は、稜線を歩き東天狗岳へ向かった。そして中山峠で下界を見下ろしたのち、観光地白駒池へと向かった。澄んだ白駒池のほとりで食べたサバの炊き込みご飯は格別であった。

行者小屋	→	硫黄岳	→	東天狗岳	→	中山峠	→	白駒池
2:50		5:45		8:36		10:34		12:35

#### 4日目

これまでの3日間の疲労を考慮して当初のコースを短縮して下山することになった。そのため出発は6時半であった。森の中を順調に下っていき、最後には川に飛び込みをする者もいた。そして満を持して入浴した天下の霊湯こと渋御殿湯では至福の時間を過ごさせていただいた。その後11:25のバスに乗りし、1時間ほどで茅野駅に到着した

白駒池	→	渋御殿湯	→	茅野駅
6:20		10:00		12:40

#### まとめ

今回は北アルプス本合宿のためのプレ合宿という名目であったがその実態は、1日10時間弱登り降りを繰り返すという過酷さを伴うものであった。しかし、1回生の私としては山の過酷さを知るといって、これ以上ない良い経験になったと感じている。また、過酷な日程の中、大きなけが人も出ずに無事下山できたことを部員として誇りに思う次第である。

